

## コミュニケーション学部報（2015年度）

### 1. 専任教員

教授

池 宮 正 才  
川 井 良 介  
川 浦 康 至 (学部長)

駒 橋 恵 子  
桜 井 哲 夫

柴 内 康 文  
関 沢 英 彦

中 村 嗣 郎  
西 垣 通

長谷川 倫 子  
本 橋 哲 也

山 田 晴 通  
渡 辺 潤

准教授

遠 藤 愛  
大 榎 淳  
北 村 智  
北 山 聡  
佐々木 裕 一 (教務主任)

深 山 直 子  
ピーター・ロス

専任講師

阿 部 弘 樹  
小 山 健 太  
松 永 智 子  
光 岡 寿 郎

### 2. 客員教授

中 村 理恵子  
芳 賀 啓

### 3. 特任講師

草野ハベル清子  
吉 田 達

### 4. 非常勤講師

新 井 一 央  
井 上 俊 也  
エバノフ恵智子  
遠 藤 大 輔  
大 谷 安 宏  
坂 下 裕 明  
鈴 木 麻利子  
曾 根 和 子  
谷 完 生  
濱 野 智 史  
堀 正  
ジョン・マクグラス  
水 野 裕 子  
三 橋 順 子  
森 津太子

### 5. 学生が選ぶベストティーチャー賞表彰

・受賞者

北山 聡

・授賞理由

北山准教授は授業、進路相談、ゼミ、そして「あなたにとってのベストティーチャーは？」という質問に対する回答でも上位を占めました。とりわけ1年生の半分が履修する「社会調査入門」では、テレビ視聴率や内閣支持率といった身近な調査をとり、クイズ形式の理解度チェッ

クが好評で、「教員の教え方の工夫などでわかりやすい」という観点での評価が高く、最終的にベストティーチャーに選ばれました。

受賞者あいさつを学部ブログ「きょうもトケコミ」(<http://comtku.blogspot.jp/>)に掲載しました。2016年6月10日の記事です。タイトルは「2015年度ベストティーチャー」。

**【参考】**東京経済大学コミュニケーション学部「学生が選ぶベストティーチャー賞」実施要項

2015年4月1日 制定

#### 1. 目的

東京経済大学コミュニケーション学部は、以下の目的をはたすため、「東京経済大学コミュニケーション学部ベストティーチャー賞」を設ける。

(1) 教育実践において学生から高い評価を得た学部教員を「ベストティーチャー」として表彰する。

(2) 「ベストティーチャー」の高く評価された点や授業ノウハウを教員間で共有し、教育水準の向上を図る。

#### 2. 賞の英文名称

本賞の英文名称は、Best teacher awarded by students とし、「BETAS」を通称とする。

#### 3. 賞の授与

本賞は、学生アンケートの回答をもとに、以下の点について評価の高い教員を年に1回選出、表彰するものである。

(1) 授業において、卓越した指導力で教育効果の高い授業を実践した者。

(2) 教育方法の工夫又は改善に取り組み、顕著な教育成果をあげた者。

(3) その他、ベストティーチャー賞にふさわしいと認められる者。

受賞対象者はコミュニケーション学部教員（コミュニケーション学部生が履修する授業担当者）とし、非常勤教員を含む。

受賞者は原則、1名とする。

#### 4. 選考手続き

(1) 学生アンケートの実施は、ベストティーチャー選考委員会が行う。

(2) 実施手続きは上記選考委員会が別途定める。

(3) アンケート結果をもとに上記選考委員会が受賞者を決定する。

#### 5. 選考委員会の構成

(1) 教務主任

(2) 学部専任教員（若干名）

(3) その他、学部長が指名する者  
委員長は委員の互選とする。

任期は1年とする。

#### 6. 表彰

受賞者には表彰状を授与する。

#### 7. 選考結果

大学のウェブサイトを受賞教員名、授賞理由を公表する。

#### 6. 卒業制作・卒業論文表彰

・最優秀賞（1点）

宮沢柁志・菅野真由・小林拓夢・北條 瞳  
「“まちおこし”と“サブ・カルチャー”：ふるさとに「自信」と誇り」をもっていますか」  
〈映像制作〉

・優秀賞（8点）

鞍谷 樹「富士山を今世界遺産にしてよかったのか」〈論文〉

佐野翔一「化粧品キャッチコピーにおける表

現特性の分析」〈論文〉

小野田拓実「コミュニケーションができない  
学生：対人不安傾向との関係」〈論文〉

柳澤 茜「なぜ商業施設にとってトイレはお  
金を投資する価値があるのか」〈論文〉

福田 誠「猫を求める人間たち：社会を反映  
するペット文化の変容」〈論文〉

江藤彩香「ウチナーンチュと日本人のあい  
だ：甲子園野球にみる沖縄の戦後史」〈論文〉

船場祐美「さようならについて」〈論文〉

井深 稜「大学生は「ぼっち」で生きている  
のか：他者・社会への意識と行動」〈論文〉